利賀っ子だより

Ｒ４．１２．２

○　当たり前が当たり前でない

今週末あたりから「雪」という予報が出ていました。

「木曜日から雪になるとお父さんが言ってたよ。」「先生は、タイヤの交換をしましたか。」「家の雪つりの手伝いしたから腕が痛い。」「スキーウエアを着てみた。」「そろそろ体操服で登校になるね。」など、子供たちの会話にも雪に備えた話が聞かれるようになりました。

【除雪　がんばるぞ】

予報通り、木曜日の朝はひらひらと雪が降り、金曜日の朝には上の写真のように積雪。こんなに積もるのを見るのは初めてという留学生も。毎年雪が積もると分かっていても、初雪となるとやはりわくわくする地元の子。今日の朝は、みな興奮気味でした。

学校でも雪囲いを業者の方にしていただいたり、除雪用具を準備したりと雪に備えています。

各教室では、チューリップの水栽培を始めました。

「水栽培を始めると冬が来たなと思う。」と話す地元の子。

「なんでチューリップ？」という留学生からの質問に、「あぁ、富山県の花だから。」と地元の子供が答えるという場面がありました。質問されることで改めて毎年行っている活動の意味を考える機会となったようです。

留学生の子供たちがいることで、当たり前だと思っていることもそうではないと気付く、そんなよい機会がたくさんあります。

【そっと　そっと皮をとって】

（高田　公美）